

移植に携わる医療者への啓発に関する研究

研究分担者 吉住 朋晴 国立大学法人九州大学・大学院医学研究院・教授

研究要旨：

本邦の臓器提供者数は世界の低位レベルにあり、臓器提供意思表示率も低下傾向にある（10.2%、2021年10月、内閣府2021）。つまり、行動変容メカニズムに基づく移植啓発が重要であると考えられる。臓器提供のプロセスにおいては、1. 生前臓器提供の意思表示あり、2. 家族の自発的な提供の申し出、3. 医療提供者側からの説明（オプション提示）のいずれかが必要であるが、いずれも十分な申し出やオプション提示が医療現場でなされているとは言い難く、医療現場において移植啓発に効果的なロールモデルの構築が急務である。

今回、医療系学生・非医療系学生への移植に関する講義及びアンケート解析を行った。学生については、臓器提供の意思表示をするのかどうか、といった身近なことから移植について理解を深めてもらう必要があると考えられた。また、医学教育のためのコンテンツ作成も有効と考えられ、現在文部科学省と協議中であり、現状の臓器移植および脳死に関する教育のアンケート調査を新コアカリキュラムへの準備状況の調査として前向きに検討していただいている。

A. 研究目的

移植啓発のロールモデル構築に関する研究として、学生（医療系、非医療系）に対して移植に関する講義を行い、アンケート結果を通して移植啓発に効果的なロールモデル構築を模索する。

B. 研究方法

学生への講義及び、講義内容についてのアンケート調査を実施した。

また、医学教育のためのコンテンツ作成として、文部科学省と協議を行った。

C. 研究結果

医療系学生への講義として、2023年度は7月7日に徳島大学歯薬学部1年生、9月2日に博多メディカル専門学校3年生、10月3日に宮崎大学看護学科2年生に、2024年1月26日に福岡歯科大学研修医に医療従事者への啓発を兼ねて講義を行った。講義後にはアンケートを実施し、多数の回答を得た。アンケートの結果、学生のうち移植に関する講義を受けた経験が8割以上に及ぶことが確認された。また、非医療系学生への講義としては、2023年6月28日と9月30日に九州大学1-4年生（選択希望者）、12月1日に医学研究院修士課程1-2年生に対して講義を行った。

さらに、現在医学教育のためのコンテンツの作成にも取り組んでおり、厚生労働省および文部科学省を通じて移植学会教育コンテンツの立ち上げを進めるだけでなく、大学関係者への説明資料にも取り入れることを検討している。また、現在の臓器移植および脳死に

関する教育のアンケート調査を、新しいコアカリキュラムの準備状況を把握するための調査として、来年度以降も積極的に行っていく予定である。

D. 考察

医学生への講義及びアンケート調査から、多くの学生が移植について考える機会があることが明らかになった。ただし、学生への啓発においては、まずは（医療系ではない）一般人として移植について理解してもらい、その後医療従事者として移植啓発の運動を行ってもらう必要があると考えられた。特に、臓器提供の意思表示をするかどうかといった身近な問題から議論を広げていく必要があると考えられた。

E. 結論

臓器提供のプロセスにおいて、生前臓器提供の意思表示、及び家族の自発的な提供の申し出が増加することは、移植啓発の一助となりえると考えられる。学生への講義を通して、移植について考えてもらうこと、そしてその考えが周りに広がることが重要だと考えられた。さらに、今後は、医学教育のためのコンテンツの普及も重要と考えられた。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表
該当なし
2. 学会発表
該当なし

1. 特許取得
該当なし

2. 実用新案登録
該当なし

3. その他
該当なし

H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む。)